

クイズマジックアカデミー

【くいずまじっくあかでみー】

ジャンル	クイズ
対応機種	アーケード
販売・開発元	コナミ
稼働開始日	2003年7月24日
クイズマジックアカデミーシリーズリンク	

クイズゲーム革命、日本全国で繰り広げられる熾烈な一斉テスト

- ▶ 従来のクイズゲームはROMによって内容が固定されているのが当然であり、稼働後の時間経過で問題の答えが変わってしまったり、問題数が限られていて何度かのプレイで答えを覚えられてしまったりするため、寿命の短いものが多かった。時代が進むに連れて何とか容量で誤魔化そうとはするものの、それも頭打ちになってしまう。そんなクイズゲームを大きく進化させたのがこのクイズマジックアカデミーである。
- ▶ 最大の特徴は「ネットワーク接続されている」ということ。これによって「全国各地のプレイヤーと最大16人同時対戦可能」、「アップデートによる新規問題の配信や不具合修正」が実現。前年に稼働開始した「麻雀格闘倶楽部」と同じく採用されたタッチパネルディスプレイによる多彩なクイズ形式の登場もあって、1989年当時クイズゲームというジャンルに新風を吹き込んだ「クイズカプコンワールド」以来ほとんど進化のなかったクイズゲームに革命を起こした。
 - ▶ 今までのアーケードクイズゲームは4択が主体だったため、正確な知識が要求されるタイピング形式のクイズは非常に斬新。また、本作以前に新規問題の追加や修正を行えるアーケードクイズゲームは皆無であった。
- ▶ ある程度の階級分けが成されているために初心者と経験者（上級者）のマッチアップが起こり難く、更に対戦形式であるために「誰も分からないような難問ばかりが出る＝即ゲームオーバー」という事態も起こり難い。これによって一見さんからやり込み派まで幅広い客層を得ることに成功した。
 - ▶ 従来のアーケードクイズゲームは「ライフ3」形式がほとんどだったため、3問連続不正解してそのままゲームオーバーという悲劇が珍しくなかった。本作では難問が続出しても予選なら下位4位に入らなければ次へ進める上に、トーナメント前には練習問題が数問できるので、苦手な人でもそれなりに楽しむことが出来るようになっている。

魔法学園を舞台にした魅力的なキャラクター達

- ▶ 稼働時に流行していた「ハリー・ポッター」シリーズを彷彿とさせる個性的なキャラクター達も人気に繋がった。当初は8名（ロケテ時点では4名）だった生徒（プレイヤーキャラ）も今では新旧あわせて21名（+DS版専用4名）にまで増えた。
- ▶ 更に近年ではキャラクターごとのイベントシーンが増え、キャラゲーとしての側面も強まってきた（この点に関しては賛否両論）。
 - ▶ キャラ属性は、巨乳・メガネっ子+おさげ・ツンデレお嬢様（ついでに貧乳）・ロリ+ニーソ・クール不思議系・体育会系・中国娘・メイド・女顔のショタ・半ズボンショタなど幅広くその道のユーザーを楽しませてくれる。誤解を与えているかもしれないが、案外事実である。

攻略法は只一つ「知識を身につける」

- ▶ 基本的な攻略法は「知識を身につけ、誰よりも早く正解のボタンをタッチパネルで押す」ことのみ。ただし、上級クラスではそれに加えて「タッチパネルを速く正確に押す技術」「問題文の類推・先読み」も多少要求されてくる。

- ▶ 最上位クラスになると、度重なるプレイで絶えず追加される問題と解答をその都度カメラで撮影して「回収」・丸暗記し、問題文の「決まり字」レベルで瞬時に解答を入力するプレイヤーも多数存在する(中には、調べた解答をノートに書いて持ち込むプレイヤーも存在するが、これは「カンペ」と呼ばれあまりマナーのよくない行為とされる)。
- ▶ トップランカーとして勝ち続けるためには大学の専攻分野レベルの専門知識も、未代まで役に立たなさそうなトリビアも、遠い異国のミュージシャンの楽曲も、日本では公開されないような映画の出演者も、競技人口の少ないスポーツ選手の名前も、果てはマニアすら知らないアニメの主演声優までも瞬時にかつ正確に答えなければならない。

シリーズ物としての弊害

- ▶ シリーズ物に常に付きまとう、古参との実力差による新規参入のハードルの高さやマンネリ化という問題もあり、新要素の追加やバランスの調整も行われてはいるが、プレイヤー人口は緩やかに減少しつつあることも実情である。
- ▶ 現在のシステムがほぼ固まったのはIVであり、プレイヤー数もその頃がピークであった。それ以降、毎回新要素が試みられてはいるが、受け入れられず軌道修正を余儀なくされているものもままある。
- ▶ 2010年稼動開始のVIIでは新キャラクターが6人追加されたが、代わりに旧キャラクター9人や電子マネーPASELIやDS版などの購入で付いた限定アイテムが使えなくなり、キャラクターファンからは不満の声が上がっていた。キャラは本作の魅力であり今後の踏ん張りが期待されていたところ、最新作のVIIIでは全員復学が決定した。詳細な経緯は[こちら](#)を参照。